

古谷古里で始動

ツフトバンク

今年は2軍で最多勝を

プロ野球の福岡ソフトバンクホークス入団2年目の幕別町出身で江陵高出の古谷優人投手(18)は5日、すばやく帯広(市南町南9線)で自主トレ1ニングを行い、古里の十勝で新年の練習を始動させた。昨秋に胸郭出口症候群と診断されて以来、およそ2カ月ぶりにキャッチボールを行うなど順調な回復ぶりを自主トレでアピール。「もう痛みもしびれもない。今年は2軍で最多勝を取る」とさらなる飛躍を誓った。

(内形勝也、塩原真)



恩師の谷本献悟江陵高監督が見守る中、約2カ月ぶりにキャッチボールする古谷優人投手

この日は年明け初めてとなる自主トレに臨んだ。腕にしびれなどをもちたらず胸郭出口症候群は昨年末の診察を経て「手術せずに1年間やってみることにした」と、今季は服薬を続けながら練習、試合に臨む。投球動作を伴う練習は昨年10月下旬から行っていないが、古里での自主トレは球団の了承を得て臨んだ。

江陵高野球部時代にバッテリーを組んでいた市内の会社員大井基暉さん(18)も参加。同部の谷本献悟監督(37)、西田つばさ部長(29)も駆け付けた。谷本監督は「まだまだ心配ではあるが、焦らずに原点を忘れず慢心せずにやってみてほしい」とまな弟子を激励し、西田部長も「けがに気を付けて一人の人間としても成長し続けてほしい」とエールを送った。

軽いランニング、柔軟体操などで体を温め、ほぐした後、キャッチャーミットを構えた大井さんを立たせ、約30〜40メートルの距離でキャッチボールをした。「5、6割の力で投げた。(大井は)慣れているので気持ちよく投げさせてもらった」と心地よいミット音を何度も響かせた。古谷投手のボールを久しぶりに捕った大井さんは「オフシーズンなのに、ボールの回転数もものすごく多いナイスボールだったので驚いた」と舌を巻いた。

昨年12月28日に福岡市内にある球団の若鷹寮から幕別町札内の実家に帰省。家族や親戚と一緒に正月を過ごした。母理江さん(43)が作った好物の肉じゃががオムレツを食べるなど古里でのひとときを満喫した。5日は自主トレの前に、FM JAGAの番組にもゲスト出演した。自主トレは6日も同施設で行い、7日は更別村のふるさと館に場所を変えて行う。11日に江陵高野球部の今年初の練習に参加し、12日に福岡に戻り春季キャンプに備える。



江陵高校でバッテリーを組んでいた大井基暉さん(右奥)と笑顔で柔軟体操をする古谷投手

OCTVで放送
古谷投手の自主トレ1ニング模様は10日から16日まで、帯広シティーケーブル(OCTV)のコミチャン(11Ch)の番組「スポーツ応援団」で放送する。初回は10日午後1時半から。



古谷投手(前列右)の自主練習に顔をそろえた江陵高校の谷本監督(後列右)、西田つばさ部長(同左)、高校で捕手を務めた大井さん(前列左)